

NEWSWAVE

発行
株式会社 常陽経営コンサルタンツ

新しい時代を切り拓く実践経営情報紙

流行色は、どう決まる？ 2年も先のファッション・トレンド

ドナルド・キーン氏が自著『日本人の美意識』で、柿右衛門様式の食器に盛り付けられた日本料理を見て「味覚的体験というより美学的体験」と絶賛し、その視覚的効果に多くの外国人は驚いている、と書いた。食器にも流行色があるという。不況になると売れるのは白い器。絵のない無地物は工賃が安いからだという。

新商品開発の重要な要素となるファッションの流行色は、どこで、誰が決めて生まれてくるのだろうか。09年12月、日本で初めて「インターカラー」（国際流行色委員会）が開かれた。議題は2011年、2年も先の秋冬カラーの選定である（非公開）。世界レベルのトレンドカラー情報は半年後、専門委員で検討され、日本では流行色情報センターがアレンジし、国内向けの

色彩を決め、関係先に知らせる。次に半年かけて世界各地で素材の展示会などが開催される。

実シーズンまで残り1年となった段階で商品企画→商品化が具体化し、パリ、ミラノ、ニューヨーク、ロンドン、東京の5大都市でデザイナーズコレクションや見本市が開かれ、エンドユーザーに届く仕組み。

流行色はインテリア、自動車、化粧品、携帯電話、デジカメなど商品開発の基礎データとなる。色彩効果は他社製類似品との差別化の決め手にもなるからだ。「白いマークII」（トヨタ）、「iマック」（アップル）=いずれも初代=などが色彩効果の好例と語りつがれている。

相続税調査、4,095億円の申告漏れ 海外関連事案は過去最高353億円

国税庁がこのほど発表した2008事務年度分の相続税調査事績によると、今年6月までの1年間に2006年分及び2007年分の申告事案を中心に1万4,110件の調査を実施し、うち1万2,008件から総額4,095億円の申告漏れ課税価格を把握した。前年度に比べ、調査件数は1.9%増、申告漏れ件数は1.0%増、申告漏れ課税価格は0.6%減少し、1件あたりの申告漏れ課税価格では1.6%減の3,410万円となった。

加算税131億円を含めた追徴税額は931億円で、申告漏れ1件あたりでは775万円となる。仮装・隠ぺいなど意図的な不正を行ったとして重加算税を賦課された件数は、申告漏れ件数の17.1%にあたる2,052件で、その不正申告漏れ課税価格は781億円にのぼった。

一方、海外の相続財産が増加傾向にあることから、国税当局では国際税務専門官等を中心に海外資産の実態把握や的確な調査を実施。同事務年度は475件の調査を実施した結果、377件から前事務年度から14.5%増の353億円と過去最高の申告漏れ課税価格を把握した。1件あたりの申告漏れは9,362万円と、全体の申告漏れ課税価格の平均3,410万円の2.7倍にのぼる。

また、資料情報等から申告納税義務があるにも関わらず無申告と想定される事案に係る調査が555件に対して行われ、このうち調査全体の84.1%にあたる467件で申告漏れ等が見つかり、その申告漏れ課税価格は661億円にのぼった。1件あたりの申告漏れ課税価格は881万円だった。